

## 1 課題を取り上げた背景

数年前に田沢湖町（現仙北市）に居を構え、絵画を中心とする創作活動のかたわら、身の回りの生物の観察活動を続けている内に田沢湖町教育委員会の依頼で町内の自然調査をすることとなった。貴重な生物が今なお生息している田沢湖町の自然環境を動画と静止画で記録して残しておこうという意図の下に始めた調査活動の最中に、国有林内でクマゲラを偶然発見してしまった。そこでクマゲラのみならず貴重な生物の生態を調べて生息環境を保護するため「田沢湖町生物研究会」を立ち上げ、さらには秋田森林管理署と「国有林野における貴重な動植物等の保護活動に関する協定書」（以下、協定という。）を締結し、年間計画に沿って活動を展開している。

## 2 研究の方法及び経過

2001年5月、当時の秋田森林管理署・田沢湖事務所に出席し入林届けを提出して調査の主旨を説明し、入林許可を得て国有林内での動植物調査に取りかかった。その年5月半ば過ぎにクマゲラがあけたと思われる真新しい穴を発見したが、クマゲラの姿を見ることは無かった。2002年4月後半、入林許可を得て調査を始めたところ、昨年あけた穴を巣穴として使うクマゲラのつがいを確認したが、繁殖には至らなかった。2003年秋田森林管理署と1年間の協定を結び、「田沢湖町生物研究会」を立ち上げ、クマゲラ観察に臨み、繁殖活動を確認した。2004年には1年間の協定を更新し、新たに岩手大学の講師と生徒も加わって充実した調査活動となり、クマゲラの繁殖活動も確認した。2005年5年間の協定を更新し、撮影機材も新たに整えてクマゲラ調査に向かったのだが目の姿しか確認できず、岩手大の学生を主体として営巣木周辺の植生調査を重点的に行った。

クマゲラの巣穴観察にはスコープを使った高倍率のビデオカメラシステムと、単体のビデオカメラを使用し、目立たない場所に設置して迷彩色のブラインドをかけ定点観察とした。ビデオカメラの設置場所は特にクマゲラが神経質な状態にあるといわれている抱卵時には営巣木から50m～70mの距離とし、子育てに夢中の巣立ち前には30mを最接近地点とした。

## 3 研究結果

5年間に渡り、営巣木を中心に南限地域のクマゲラの繁殖活動を観察し、2003年・2004年とで計5羽の雛が巣立った事と、求愛・交尾・抱卵交替・給餌・巣立ち行動等をビデオカメラで記録できた事は今後の我々の研究・保護活動に大きな意味を持つ事となるだろう。

## 4 考察

秋田森林管理署との協定の中に年度ごとに報告をするという項目があるが、署内部に留まらず、仙北市の教育委員会にも協力を要請して、「自分達の住んでいる地域に生息するクマゲラをはじめ様々な動植物の調査・観察・撮影を続け、市内の小中学校を中心に、ビデオ映像や静止画や絵画を使って、子供達に自然に向かい合う心の育成をはかる」ということが実現できればと考えている。

最後にクマゲラの生息場所については、クマゲラ保護が何よりも優先することから、旧田沢湖町管内の国有林ということにとどめたい。



求愛行動



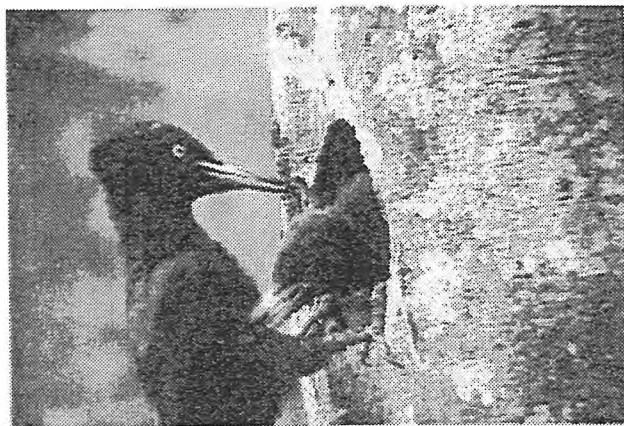
交尾



抱卵交代



給餌



雛がエサを催促する



巣立ち